1.　評 価 結 果 概 要 表

［認知症対応型共同生活介護用］

作成日　平成１９年１０月２５日

【評価実施概要】

事業所番号	０７７０１０１１５２		
法人名	社会福祉法人　ライフ・タイム・福島		
事業所名	ロング・ライフ　フクチャンち		
所在地	〒960-8154　福島県福島市伏拝字清水内２５番地 （電　話）024－546－3627		

評価機関名	ＮＰＯ法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043　福島県福島市中町4-20　みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年10月3日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】（平成１９年８月３１日事業所記入）

開設年月日	昭和・(平成)　１２年　４月　１日		
ユニット数	１ユニット	利用定員数計　9　人	
職員数	12 人	常勤8人　兼務4人　非常勤1人　常勤換算8人	

（２）建物概要

建物構造	木造・平屋　造り
	１階建ての　1　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	10,500　円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（４）利用者の概要

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護１		0 名	要介護２		2 名
要介護３		4 名	要介護４		3 名
要介護５		0 名	要支援２		0 名
年齢	平均	86.7 歳	最低	76 歳	最高　95 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 白寿会、福島中央病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは開設以来８年目に入り、現在まで車椅子やおむつの廃除、眠剤や便秘薬の軽減等毎年課題をもって利用者の支援に努めてきており、全国大会やあらゆる研修会でホームの活動事例発表等を行い、他のグループホームの模範となっている。また、地域のキャラバンメイトの講師等としてホーム内外でも活躍している。利用者の明るく穏やかな表情からは職員との信頼関係の深さが感じられ、落ち着いた共同生活を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	毎回評価結果を全職員で話し合い改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	外部評価は全職員が内容を十分理解しており、ホーム内では独自に年２回自己評価を行い、職員一人ひとりが評価を持ち寄り全職員による会議で検討し、さらにより良いサービスの実現に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	運営推進会議は昨年５月より取り組み、開催日を奇数月の第３水曜日と決め実施している。地域包括支援センター職員、民生委員、老人会、婦人会、町内会、家族会、利用者代表等が参加している。回を重ねるごとにグループホームへの理解が得られ、地域の行事への参加やグループホームの行事への参加等が円滑になっている。また、自己評価・外部評価を踏まえた改善などに会議全体で取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	毎月利用料は直接持参してもらい、その折りに利用者の状況やホーム内での様子を報告し、意見や要望等を把握するよう努めている。寄せられた意見・苦情・不安は職員会議で話し合い、家族が納得のいく解決方法を見出している。また、家族会が結成されており、家族同士のつながりが保てるようになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域との交流には積極的に取り組んでおり、施設の空きスペースを地域の行事に開放したり、婦人会の見学や中学生の体験活動の受け入れなどを行っている。自治会活動にも参加し、町内のお祭りなどの行事にも積極的に参加している。また食材等の買い物には利用者と同伴で出かけ、地元商店を利用しており、顔見知りとなっている。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年４月に全職員で地域密着型サービスとしての理念の見直しを行い、地域に根ざした理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝のミーティングで理念を唱和し、理念の共有と実践に日々取り組んでいる。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。また、町内会役員や地域の婦人会役員も運営推進会議のメンバーになっており、地域の運動会・夏祭り等の地域活動に参加し、積極的に交流に努めている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員が理解しており、年２回（２月、８月）職員一人ひとりが自己評価を行い、それを全職員で協議しサービスの改善や質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年５月より２ヶ月に１度実施し、ホームの行事予定や実施報告、外部評価結果の報告及び地域の行事の把握等を内容とし、意見交換を行っている。また、その議事録を作成して職員に伝達し、全員で共有している。		
6	9				
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	手作りの広報誌を定期的に発行し、家族へ送付している。また、毎月の利用料金の支払いは振り込みではなく、現金を持参してもらい、その折りに家族へ利用者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会で意見を収集をしている。また、運営推進会議にも家族代表２名がメンバーとなっており、広く意見や要望を収集できる体制となっている。利用者それぞれに担当職員がおり、意見や要望等は運営やケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は職員の退職等止むを得ない場合のみとしている。ホーム職員が研修等で人員不足になる時は法人の兼務職員で対応している。日頃から兼務職員は利用者と馴染みの関係ができている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所長は、職員育成を重視しており「人材」を「人財」と表現し、全国各地での研修に積極的に参加させており、昨年の内部・外部研修への参加は20回を超えていた。研修内容は研修に参加できなかった職員に報告し、職員全体に伝わる仕組みとなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	所長が福島県グループホーム連絡協議会の会長であり、職員は各方部で開催される協議会主催の研修会には交代で参加し、交流を通してサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、利用者の得意なこと、やれること理解し、普段から利用者から学ぶ場面を演出している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式よるケアマネジメントを採用して活用している。心身の情報や本人の意向の把握に全職員で取り組んでいる。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式活用による情報を基に、職員で検討し、本人や家族との話し合いで介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの介護計画に対してモニタリングを行い、その結果をもとに介護計画の見直しを行い、家族への同意を得ている。また、状況が変化した場合には現状に即した介護計画の変更を行い、その都度家族に同意を得ている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの主治医は入居前からのかかりつけ医となっている。各主治医との連携を図り、本人や家族の希望に応じ支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期については、看取りに関する指針を示している。また、事前確認書を作成し、利用者と家族と職員間で情報の共有に努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人の尊厳に配慮し、目線を合わせた言葉かけや他の人の前で大きな声で話さない等を実践している。利用者等に「個人情報使用に関わる同意書」について説明し、同意を得ている。職員は、個人情報の漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に見守られ利用者のほとんどが自由に行動しており、一人ひとりのペースに対応して支援している。「ダメ」を禁句とし、自分でできることは自分でする"自己決定"を重んじるホーム方針が完全に定着し、利用者の症状軽減に結びついている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は利用者とチラシ等を見ながら決め、利用者と買い物に行き、調理も一緒に行っている。職員は利用者と同じ食卓を囲み、さりげなく支援しながら一緒に食事を楽しんでいる。後片付けも役割分担ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が基本で、本人の希望に合わせて入浴できるよう支援している。介助する職員はその日の遅番の職員と決めている。また、入浴剤を毎日変えて楽しめるようにしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	一人ひとりやりたいことやできることを把握し、役割や散歩などの希望を実現できるように取り組んでいる。（お茶入れ・テーブル拭き・椅子上げ・洗濯たたみ・調理手伝い等）		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	地域行事への参加・買い物・散歩などを日常的に行い、職員が業務で法人の特養などに出かける時には一緒に行ったりしている。また、「ふるさと訪問」として職員が付き添い、順次利用者のお墓参りに行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることも拘束の一つであることを十分意理解しているので、鍵をかけないケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月15日を防災訓練の日と決めて実施しており、総合防災訓練は９月に実施している。訓練内容も実際の災害を想定し予告なしの訓練も取り入れ、非常時の避難の習慣化を図っている。地域の協力を得るため、所長と管理者の携帯電話番号を隣家の方に伝えてある。災害時用の食糧、水等は備蓄している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日チェックし、特に水分は一日1500cc取るように管理している。定期的に法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員で過ごせる空間と少人数でくつろげる空間があり、食堂はテーブル、居間は畳と掘りこたつがあり家庭的雰囲気である。ホーム内は清掃が行き届いており異臭も無く、快適に過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は広く、利用者は馴染みの物を持参し、一人ひとり個性的な居室となっている。		

※ ▒ は、重点項目。

３ 評価結果に対する事業所の意見

事 業 所 名	ロング・ライフ フクチャンち
記入担当者名	森　重勝

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。